

平成25年度第6回島根県総合教育審議会

日時：平成26年2月14日（金）

9：30～12：00

場所：サンラポーむらくも 2階 祥雲の間

<会長>

失礼します。本日の会議も、県の情報公開条例34条に基づいて公開としておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、議題の1ということで、次期の教育ビジョンについて、事務局から御説明をお願いしたいと思います。これは、今までさまざま細々としたことも含めて議論をしてきましたし、意見も伺ってききましたが、もう一度全体的な枠組みに立ち戻って、議論をする必要があるということで、資料の1を出しているところでございます。

それでは、事務局のほうからどうぞよろしくお願いいたします。

<事務局> （配付資料により説明）

<会長>

ありがとうございました。大分前回とは変わった面持ちになっております。別図のほうでいきますと、一番右のほうの具体的な取組というところは、いわば各課、各部局の施策として、一定程度予算の裏づけもある事業計画等として進めていこうとすることによってございまして、そのことは非常に重要です。一方、教育プランの全体像をどういうふうに県民の方々に理解していただくか、あるいは学校現場の先生方にこういう目標で、こういう理念でやっていくんだということを全体像として共有していただくためには、左側から右側に向かって基本理念、基本目標、具体的目標というところに一定の文脈とメッセージ性が必要だろうと思います。今日の協議は、基本理念、基本目標、具体的目標のところまでの構造について、これでいいかということについて主に御議論いただければと思います。前回まで入っていたキーワードが移動したり、また、柱立てが変わったりしているところがありますので、そこも含めて見ていただければありがたいというふうに思っております。

前回、御都合が合わなかった委員さんには、前々回までとはかなり異なった図式になっておりますのでおわかりになりにくいところもあるかもしれません。御質問も含めて、御意見を伺いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。どこからでもどうぞ。

<委員>

すみません、前回欠席しまして申しわけございませんでした。前回の議事録等々も読まさせていただきますので、ここまでの前段の部分というか、全体構造というか、ビジョンのところ、力を入れた審議会は少なかつたんじゃないかと思うぐらい、委員さん方の強い思いとか、あるいは事務局の皆さんの粘り強さとかが感じられる、そういう絵だなというふうに思いました。

資料が添付されていますけど、修正前の体系とは全く異なると。逆に修正前の体系よりも、今日お渡ししていただいた全体構造のほうが非常にわかりやすく、頭に入りやすい

ものではないかというふうに私自身も感じております。意見の中でもよくありましたけど、どこかやっぱり今後の10年に向けて強調すべき部分は強調していかないと、総花的になってはいけないという意見がたくさん出ておりましたので、そういった意味では、本当によく整理されたなというふうに、かなり会長さんや事務局の皆さんが、御尽力されたなというふうにちょっと感じるような、一目でそれが協議した人間には見てとれるような、あるいは初めて見る方もすっと頭に入りやすいような、そういう全体構造ではないかなというふうに感じさせていただきました。

少しだけ、1点だけちょっと意見をということで、「広がっていく社会力」、今、御説明された2ページのほうなんですけど、「広がっていく社会力」の中で、社会の中に島根を含むと。島根はふるさとの代名詞だという御説明がありました。それで、そういう趣旨であれば、そういうまとめ方でもいいのかなというふうに思って、一概に否定するつもりはございませんが、若干社会というとソサエティーというか、ボーダーレスな線のないイメージがございますし、ふるさとというと、何かボーダーがあるところか、アイデンティティーというような部分も強くあるものですから、ちょうどこのページの真ん中ですね、「広がっていく社会力」の中の基本目標の中で、多様な人と積極的にかかわり、地域やふるさとに役立とうとする人間を育てると。それが次の「高まっていく人間力」のほうにつながっていくわけですね。自尊心だとか、アイデンティティーみたいなところにつながっていくと。人間力のベースにつながっていくという流れからしても、社会の後に、「ふるさと」とか、何かそういう文言があってもいいのかなと。これはあくまでも意見ですので、御参考までということでございます。以上です。

<会長>

ありがとうございました。基本目標の中に、前回まではふるさとという言葉が出てきていますし、そのあたりをどこに落とすかというのは非常に難しいところですね。それで、今御意見があったように、社会というふうな言い方よりも、具体的にここに書いたほうがいいんじゃないかという意見ももちろんあると思います。今回の案では、基本理念のほうに、島根という言葉を出しているという形になっているということですね。委員さんの御指摘もごもっともだというふうに思います。

ほかに御意見ございませんでしょうか。委員さん、お願いします。

<委員>

すみません、私も前回は欠席させていただきました、本当にちょっと後に戻るような発言になるかもしれません、すみません。

3ページ目ですね、基本理念のところ「島根を愛し 世界を志す 心豊かな人づくり」という基本理念を挙げてあります。この「島根を愛し」というのは、逆に大きく捉えて、「ふるさとを愛し」というのではやっぱりこの場合はおかしいですかね。逆にふるさととは、島根であったり、それから、各市町村であったりというようなことでは、やはりここでは島根というのを出したほうがきちんとまとまるのですかね。すみません。

<会長>

島根じゃなくて、ふるさとのほうがいいというふうにお考えになる理由をおっしゃっていただければ。

<委員>

やはり人は島根で本当に生まれ育った人もおられるし、他の地方で生まれ育って島根に来られた方もおられます。そういうのもちょっと含めて、広い意味でということで、すみません。

<会長>

ありがとうございました。どっちもありだと思いますね。これもこの委員会の中でも左に右に揺れているところがございます。「しまね教育ビジョン21」の「しまね」というところを取ってしまったら、これは別にどこの県でも通用するんじゃないかという話にもなってしまいますので、そういう普遍的なものにするべきだという考え方と、それから、どこかにやはり島根というものを出そうという意思と、両方ですよ。先ほどもあったように、島根に役立つとするというように落とすと、結構厳しい話になってきますし、その辺が難しいなというところですよ。

今日はそこにも結論を出さなければいけないので、皆さん方の御意見を積極的にいただきたい。今の考え方も当然一つの考え方だというふうに思います。いかがでしょうか。委員さん、お願いします。

<委員>

私も前回、前々回と欠席させていただきまして、失礼しました。いろいろ資料をいただきまして、読ませていただくと、先ほど委員さんがおっしゃったように、よくここまでまとめてこられて、今日、このカラー刷りのほうをぱっと見させていただいたときに、一番最初に、この基本理念、「島根を愛し 世界を志す 心豊かな人づくり」という、ここが本当にスムーズに頭の中に入ってくるというか、やっぱりこれなんだというところが非常にうかがわれて、A4の横から縦になった、一番このビジョンの中で大事な表紙というところの部分で、非常にきれいにまとめられていて、これならという、私が欠席している間にこういうふうにしていただいて、ありがとうございましたという、そう言うべきなのかもわかりませんが、最初のこの基本理念のところ、「島根とはふるさとを象徴してあらわしました。したがって、この島根は、人によって、あるいは場面によって、島根であったり、市町村であったり…」という、ちょっとこのところを読んでいくと、いつか、総合体育館の裏側のほうにちょっと小高い地山みたいなものがある、そこにゴリラか何かの模型があって、「松江の子どもは島根の子ども、島根の子どもは日本の子ども、日本の子どもは世界の子ども」と、御存じの方がいらっしゃるかもわかりませんが、何か手を振るとか、その前でちょっと光を遮るのか何か知りませんが、子どもたちがその前で動いたり、抱きついたりなんかすると、機械的な音声なんですけども、そういう言葉が出てきたという、あれがここに今あるんじゃないかなと、ちょっとそういうふうに思って、何十年か前、そういうものがあつたなというのを思い出して、ここの言葉が非常にぴったりきているなという感じがいたしました。

この表紙の部分の「全体構造」というところで、真ん中からやや下のほうに「上記の基本目標全てに関わるもの」が4段ほどあって、「相互に関連」と、上3つが子どもさん向け、下が大人向けというふうに書いてあるんですけども、このところの関連性というのが、確かに今ここで話を聞くと、確かにそうだなという部分はあるんですけども、このところが少しわかりにくいかなという、ここらあたりをもうちょっと多少、絵というか、文言としては恐らくこのままでいいと思うんですけども、ここが多少変わるといいのかなと。ただ、じゃあ、どうしたらいいのかと言われると、若干困るなという部分があるんですけども、そういう感じがしたところでございます。

<会長>

ありがとうございました。先ほど事務局からもありましたように、下のほうの少し色づけになって、4本といいましょうか、3本プラス1本の柱が横に立っているところについては、それぞれの基本目標や具体的な目標に通底するような施策ということで、大きく言えば、学校運営といいましょうかね、学校づくりの問題が一つ。それから、家庭、地域の問題が一つということだと思います。大きな柱はそれだと思いますし、もちろん地域の問題ということは、社会教育の問題ということでもありますので、その2つか3つということです。発達段階に応じて云々というのは、多分この図のことですね。前回三角形で階段で上っていく、これが、ここでは発達段階に応じた各学校種での教育的展開となっていますけども、これは前回のこの図のタイトルでいくと、子どもの発達段階ごとの目標で整理した教育構想図ということになると思いますので、そこが上手にここにはまっていくような感じになるんじゃないかなというふうに考えているところです。ここは次回の整理というふうに伺いましたので。ほかに。委員さん、お願いします。

<委員>

失礼いたします。意見というよりも、感想を述べさせていただきたいんですけど、本当に今まで言いたい放題言ってきました意見をすごくわかりやすくまとめていただいて、今日は本当にこの1枚で、自分の心の中にずっと入ってきたなというふうに思っています。

一つ一つ説明していただいた中で、自分の子育てを頭の中に想像しながら、ここから10年間の子育てを考えたときに、本当にわかりやすく、この前の審議会の際に、自立という言葉に対してちょっと違和感があるなというふうな意見を述べさせていただいたんですけども、「自他を等しく大切にし、ともに生きようとする人を育てます」というふうに、具体的にやわらかくしていただいたところ、とても意見を尊重していただいて、うれしく感じております。

健康、自他ともにやっぱり協調していくということがとても私は大切だなというふうに思っていて、その中に自己肯定感というのが育って、社会に出たときに、相反する意見の中でも相手を思いやって、少しずつ意見を協調し合い、また、その大きい社会を小さくしていくと、学校だったり、家庭だったり、やはり心の問題、安定する心というのが一番の核になるのではないかなと思っています。その中に、やっぱり心身の健康と、それから学力に対する学ぶ力、意欲というものがどんどん出ていくということで、一番下にある三角形の人間力というのが根底にあるというのもとてもわかりやすく、いい全体構造

がつくり上がっているのではないかなというふうに思いました。ありがとうございます。

<会長>

ありがとうございました。委員、お願いします。

<委員>

皆様が言われたこととほとんど似ているんですけども、今回のこちらの全体構造は、非常によく整理されていて、本当に力作だというふうに思いました。

特に人間力を一番下に据えたというところがすばらしいなというふうに思います。なぜかという、これからは経済のグローバル化によって、異文化との共生というのがキーワードになってくると思います。ますますいろいろな文化を持った人たちと日本の子どもたちはこれから対応していかなければ、国際社会を、グローバルな社会を生き抜くことはできないです。そのような多様性のある社会の基盤として、人間力を育てるという発想が非常に共感を呼ぶというふうに思いました。ありがとうございます。

<会長>

ありがとうございました。委員さんとしては、基本理念のところの「島根を愛し」は、「島根」がいいですか、「ふるさと」がいいですか。そのところを、委員さんが一番こだわって議論されたようにも思いますので、すみませんが、御意見を伺いたいと思います。

<委員>

すみません、前回の議論で、結構言ってしまったんですけども、ふるさとという概念にいろいろな差があるということがわかりました。あくまでも私が思うふるさとというのは、ノスタルジックで、野山でウサギを追いかけるような、そのような、具体的な場所ではなく、イメージ、私が思うふるさとというのは、そういうノスタルジックなイメージで、都会に出た人が郷愁を感じるような、そういう場所が私にとってのふるさとです。ですから、そういうイメージで発想しますと、「ふるさとを愛し」というと、もう都会に出てしまっているのを前提にしてしまって、島根をふるさとにしてしまっているいいんですか、となります。島根は私たちの今生きる場所であって、ふるさとじゃないというふうに私は思うんです。私は千葉県から来ましたので、私にとってのふるとは千葉県の自分の生まれ育った畑だとかの田園風景だとか、そういう原形がやはり私にとってのふるさとで、島根は私にとっては全くふるさとではありません。今生きているこの場、それしかないです。なので、ふるさとという概念をどう捉えるかによって、ワーディングは変わってまいります、こちらは皆さんの御意見にお任せいたします。

<会長>

ありがとうございました。それでは、委員さん、お願いします。

<委員>

私はけさ一番にこの別図を見させていただいて、今日はもう何も言わずに帰れるな、気

持ちよく帰れるなと思いました。基本理念のところですけども、「世界を志す」の「世界」の意味づけに、いわゆるグローバルの地球ということだけじゃなくて、活動領域や職業の専門分野がある、そういう世界があるということここにきちんと示していただいたことにとってもびっくりしました。そういう考え方があるんだなということ、子どもたちにも気づかせてやる、とってもいいスローガンだなというふうに思いました。

それから、学力の「向かっていく」という表現が私たちが今まで言ってきたことがそのままとんと落ちるような表現で、いいなというふうに思いました。

それから、社会性というところが社会力になって、いろんな立場の人がいるということ、小さいときからかかわりの中で気づいていくということがここに、社会力というところに非常に込められているというふうに思いました。

それと、「高まっていく人間力」で、やっぱり一番もとになる自分の存在を自分も認める、社会も認めてもらえるという、おごりの自尊心じゃなくて、大切にされていく、そういう自尊感情が学ぶ力にも、それから、他の人とも気持ちよくかかわっていき、譲るところは譲るんだとか、助けてもらうところは助けてもらうんだという、そういう意味の強い、人間としての自尊感情という意味で、とってもいいなというふうに思いました。

それと、委員さんがちょっと言われましたけども、社会教育の部分が大人の部分というふうに、いわゆるずっとそこまでのところは子どもをどういうふうに育てるかというところになっている部分と、大人の部分が非常に切り離されているような感じ、取ってつけたような感じになっているような気がします。子どもを育てるところで、スポーツ活動も社会教育も文化財も同じようにかかわっていくという視点で見たときに、それは大人側の努力というんですか、大人もかかわって子どもを育てることによって、大人も学んでいたり、地域を変えていけるというふうな捉え方にしていけば、すっきりしていくのかなという気が私にはしました。自尊感情にしても、「広がっていく社会力」にしても、「向かっていく学力」にしても、地域やいろんな人とかかわりながらでないと、学校だけでは狭いんじゃないかなというふうに思いましたので、そういう意味で、社会教育の部分を捉え直してみたら、何か大人のほうもすっきりするし、学校のほうもすっきりするんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

<会長>

ありがとうございました。前回おまとめになった視点と少し違うのは、今おっしゃっていただいた社会教育のことと、それからキャリア教育という言葉はどういうふうに使うかということで、今回は表面からは実は消えているような印象になっています。これも非常に難しい言葉で、出すと独立した領域のようにも見えるし、ただ、それは各課に共通してみんなでやらなきゃいけないものだという捉え方もできる。この2つはやっぱり非常に難しい概念で、表の中に出すと、実は一つの箱の中に入り切らないようなところでもあるということがあろうかと思えます。御指摘については、また、次回、この階段状の図をお示しいただくところの中でも少し御整理いただかなきゃいけないところかなというふうに思っております。ありがとうございました。

ほかにいかがでございましょうか。委員、お願いします。

<委員>

前は途中で退席して申しわけありませんでした。ほかの委員の方々が皆さんおっしゃっているように、非常にわかりやすい整理で、本当によくできている案だなと、本当に心から思いました。

その上で、一つ、これでもいいのかなと、自分の中でも揺れているところなんですけれども、例えば「向かっていく学力」のところに、たくましさ、意欲、健康、運動、生活習慣というものが入っていて、確かに、向かっていくために必要なものではあるんですけれども、若干ここに入る違和感があります。それで、先ほど今日はまだ出してないけれどもとおっしゃられましたけれども、健康とか、そういうものは一番下に土台で持ってくるというふうにさっきおっしゃられたので、こういうふうに健康とか、運動とか、生活習慣ということは、学力とか、社会力、人間力、全てに共通するものでもあるので、下の基盤のところに持っていてもいいのではないかというのがまず1つ目です。

それで、もしそうするとすれば、残る学ぶ力とか学んだ力というのをもうちょっと分解的に書くというか、今例えばで考えてみたんですけど、問いや課題を設定する力とか、そういう自分が立てた課題を追求、探求する力、自分が学んだことを生かす力みたいなふうに整理すると、例えば今1つ前で話題になったキャリア教育というところと関連づけられるかなともちょっと思ったというのが気づきです。ただ、このままでもいいのかもしれないというところではあります。

<会長>

ありがとうございました。この基本目標と具体的目標の関係というのは、非常に難しく、基本目標は学力、社会力、人間力というふうに整理するんですけど、それが2つずつとか、3つとかに本当はきれいに分解できるといいんですけど、なかなかそうもいかないところがあります。学力というところだけに絞り込んで分解していくと、今おっしゃったように、少し学力を構成する要素というところになっていって、そこまで落とすと、悪くはないけど、社会性とか国際性とかとつり合うかといわれると、ちょっとつり合いが悪くなるという面があるんだと思うんですね。だから、多分このところは、学力を支えるというだけではないけど、意欲とか、困難があってもチャレンジしようとする気持ちとか、最近特に言われる生活習慣の問題なんかをここに落とし込んでいるという理解になっているんだと思います。そのあたりが非常に難しいところですね。

ほかにかがでございましょうか。お願いいたします。

<委員>

確認したいんですけども、基本目標のところに、「学ぼうとする」、「役立とうとする」、「生きようとする」、これらの字句を整理すれば、「学ぶ」、「役立つ」、「生きる」とすっきりするんですけど、こういう表現にされた思いをまずお聞きしたいなと思います。

<事務局>

「学ぼうとする」、あるいは何々するという、その表現の意図ということでございませ

ようか。

そこにやっぱり自分の意思があるんじゃないかと。押しつけではなく、我々教育する側はある意味そこに働きかけていくわけですが、そこから内発的に自分の意思でこうなってほしいという。

<委員>

多分そうじゃないかと思ひながら。

それで、書かれるときは、基本理念のところに、「島根を愛し」、一つあけて、また、「世界を志す」、一つあけてという形に、1字あく形になるわけですね、当然。

<事務局>

すみません、そこまではまだ考えてなかったんですけど、これは資料としてわかりやすく、こう区切ったほうがいいだろうということで御提案してまして、そのところはまだ意識していなくて、決めていただければそういう形で整理できると思います。

<委員>

あけられたほうがいいと思います、一つ一つを強調する意味で。それと、下の三角形も、これも載せられるわけですね。

<事務局>

はい、これはやはり基本的な考え方だと思いますので、三角形がいいのかどうかわかりませんが。

<委員>

「人間力」が基本にあるのはわかるんですけども、「学力」がすごく小さくなっていて、ともにリンクしているならば、「学力」が上に、三角形じゃなくて、3つぽんぽんぽんと置いて、それぞれがリンクし合うというような矢印にされたほうがいいのでは、という気もするのですが。

<事務局>

実はこの作図をしているときに、「学力」が小さいなと正直思ひまして、どうしていいかと。土台というのをやっぱり意識したいなというのがあって、そういう意味で、こういう図に。ちょっとその辺は考えたいと思います。

<会長>

お願いいたします、委員さん。

<委員>

小・中・高でとことん教え込まなきゃいけないのは、学力なんですけれど、実際生きていく中では、人間力で信用され、社会力でやっぱり生きていくすべを身につけ、ちょっと

の学力で働いていくという、多分そういうことじゃないかなと思うので、何となくぴったりくるといえば、ぴったりくるという考え方もあります。

<会長>

お願いします、委員さん。非常に大事な根本的な問題ですので、そこは議論いただくべきところですね。お願いします。

<委員>

今ちょっと話していたんです。言われることは、こういった図かなというふうな、「人間力」が下に来て、これが「学力」を支える、こういったような図もできるかな。今言われたことをイメージしたときに、こういうふうなものが私の頭の中に浮かんだわけですけども。これは、今のこれもいいかなと思いつつながら、ここはちょっとまた、「人間力」はやっぱり底辺かなというのは思っています。

先ほど言われましたが、私も、たくましさ、意欲、健康、体というところがちょっとひっかかるなと思っていたんですけども、ただ、基本目標の中の「知・徳・体が調和し」という言葉がここからは消えてしまっているんですけども、基本目標の中に、「夢や希望」のところは「知・徳・体が調和し」と来てもいいのではないかなというふうな思いが。あとのところは、言われたように、実現を目指す自立した人というところが主体的に学ぼうと、自分から意欲的にというところがあらわれておりますので、これはちょっと考えて、ここに入れてみたらどうかというふうなことも思っています。

そして、今の「ふるさと」論議ですけども、これはそれぞれの思いと考えると、私も、ああ、そうなんだなって、この「島根を愛し 世界を」って、ああ、これも何となくいいな。いいなと思いつつながら、先ほど言われたように、ふるさとという言葉がこの中から消えてしまったことにはちょっと寂しさを、先ほど言われた社会力の中とかのところに「ふるさとかかわり」とか、何とか出てこないものかなというふうな思いはしております。

<会長>

ありがとうございました。なかなか全体構造というのは難しいもので、落ちているものを上げていくと、またどんどんわけのわからない箱になっていくということになりますので、その辺はまた事務局でもお考えいただいて。

先ほど委員さんが言われた中で、「向かっていく」、「広がっていく」、「高まっていく」という、何々していくという、少し方向性といいたいまいしょうかね、それから、何々しようとするという、そこのダイナミズムというのがちょっと特徴になっているかなと。そのところは、事務局が言われたように、内発的、内発性というのがすごく大事で、最終的に役立つかどうかということよりも、やっぱり役立つとするという、その動き、気持ちの動きのほうを大事にした表現ということになろうかと思えます。

それから、三角形の図ですけど、「学力」がどれほどのものかというのは難しいですが、その3つを併置して、3つの関係でいきますというよりは、やはりピラミッドなんだろうというふうには、私は個人的には思っています。学力は要らないということじゃなくて、でも、学力だけあって、下が育たないというのはやっぱり困るんですよね。だから、何のための

学力かというふうにと考えると、やはりそれは社会的な力や人間的な力を土台に育てないといけない。教育基本法の第一条にあるように、人格の完成を目指すということは教育の目的として非常に重要な点だというふうに考えております。ただ、3つの大きさについては、「学力」のところを「社会力」の半分ぐらいまでもってくるなど、各パーツの面積の問題と、下から上へと積み重なっていく構造の問題で解決していただければよいので、ピラミッドの構造としては一応キープしたほうがいいんじゃないかなという気がいたします。3つ併置して、それぞれ関係するという図よりは、ピラミッドのほうがいいと思います。

ほかにはいかがでございましょうか。お願いします。

<委員>

すみません、図の上側ばかり気になって。ちょっと全てにかかわるものところで、今ぱっとどなたかのお話を聞いて気づいたんですけど、各学校種での教育的展開と家庭、地域の話と信頼される学校づくり、そして、一番最後に分野がちょっと離れているので、社会教育がちょっと下げて書いてあるところで、家庭と地域と学校づくり、これを反対にしてもいいのかなという感じがします。さっきのピラミッドじゃないですけど、まずベースが家庭、地域にあって、学校づくりがあって、その中でまたいろんな教育的展開があるというほうが順番的にしっくりくるなというふうに思ったのと、それから、ほかの人が見たときに、信頼される学校づくりが上に来ている、家庭は3番目というふうには、両方の意味で、そういう順番のほうがちょっといいのかなというふうに感じた次第でございませう。

<会長>

この部分については、この全体図の中にどう入れるかという問題と、それから、階段図の中にどう位置づけるかという問題が一定程度一致しなければいけないので、そのところはまた今後の課題ということにさせていただいて、今の御意見も踏まえながら整理をいただければありがたいというふうに思います。

いかがでございましょうか。さまざまに、もう最後の整理の機会ですので、御意見をいただいたほうがいいと思います。いかがでしょう。お願いいたします。

<事務局>

先ほどキャリア教育のことが出ました。それで、キャリア教育というのは、教育全般にかかわる一つの考え方というか、非常に大切にしなければいけない事柄だと思っております。例えば就職後3年以内にやめる方が、七五三というような状況の中で、学びと社会生活が結びついていくとか、社会との関連が子どもたちの中で意識されているということはやはり教育でやるべき大切なことだと思うんですが、この全体構造の中にどのように落とし込んでいいのかというのが当初からの悩みでございまして、例の階段状の図は、基本的にはキャリア教育の考え方で整理させていただいているんですけども、この全体構造の中にキャリア教育をどのように落とし込んでいいのかというのを少しちょっとアドバイスいただけたらと。

<会長>

いかがですか。

今、国のほうでは、基本的には小学校、あるいはそれ以前の段階からのキャリア教育を、という言い方をします。そうであれば、この図の土台部分にキャリア教育というのが位置づけられていなければいけないですね。今回の整理で、「向かっていく学力」、「広がっていく社会力」、「高まっていく人間力」というふうに、もしするのであれば、高まっていく人間力の基盤はキャリア教育ですので、そこに副題としてキャリア教育というものを据えて、キャリア教育を各学校種で段階的にどう展開していくかということを具体的に落とし込んでいくという手法が国の施策にも一番なじみますし、スマートなやり方ではないかと思えます。

<委員>

構造をまとめるときに、何を上位概念、中位概念、下位概念とするか、その整理が一番大変なので、私もこの整理はこの整理ですし、いろいろ意見が違うというのは、それぞれの整理の仕方が違うので、ぶつかることが間々あるんですけど、基本的には物すごく皆さんが納得するぐらい、これは考え抜かれた整理で、強調すべきところを強調されているので、余りこの中をいじるべきではないと思います。

キャリア教育は確かに重要性を帯びていますし、国の施策の中では一つの重点的な項目に挙がってはいるんですけど、今回島根でこのビジョンの中で考えて、何を強調すべきかというのをこうやって回数を重ねてきたわけですから、ここに付記していくというよりは、整理の仕方という、例えばこの中の具体的な取組Cとか、そういう中に入っていきべきものなのかなと。施策の一つとして入っていく、取り組んでいくと。別に施策だから、下位だから、概念の中で下位だから卑下するものではなくて、もちろんこの施策はそれぞれ一つ一つは多分重要だと思うんですね。だから、たまたま島根県のこのビジョンの中で整理していったら、それは施策の中の一つの取組だという位置づけでもいいんじゃないかなというふうに感じました。

<会長>

今の御意見は、具体的な施策の中にキャリア教育がさまざまに展開されていれば、実質的な意味ではいいのではないかというお話。さっきの事務局の御心配は、表面に看板として見えるところにキャリア教育という文言が落ちていることについては、大丈夫だろうかという御不安ですので、そこですね。

<事務局>

ちょっと先ほどの説明で不足していたんですけど、もともとこの図のこの上のタイトルのところですね。これは今「自立を目指すしまねの子ども教育」という形で、これが今後はこの下の基盤のところの発達段階に応じて各学校種の教育的展開という形になるわけですけども、もともとこの発想そのものがキャリア教育の考え方でつくったということで、一番初めの我々の素案のところでのネーミングでは、「島根のキャリア教育」という形でこれを提案したらどうかと思っておりました。そういう意味で、先ほどの御意見もちょっと参考にさせていただきながら、ここへ、先ほどの升目の下のところにある基本的なとこ

ろの名前のところに、括弧書きで、キャリア教育とか、何かそんな感じかなとか思いながら、ちょっとお聞きしたところでございます。すみません。

<会長>

ありがとうございました。キャリア教育そのものの概念としては、非常に大きな概念なんですよね。学力から何からみんなそうだとしたことなんだけど、ただ、それが普及しているかというふうに考えると、県民の目から見ると、職業教育を早くからやるのというふうに見えてしまうところがあって、それがやっぱりしんどいんですね。だから、今はキャリア教育というものを教育ビジョン全体の表看板として出す時代ではまだないなという感じが実感としてはします。国のほうはそのように旗を振っておられることは私もよくわかっているんですけども、ただ、それを看板に出してしまうと、島根は県を挙げてキャリア教育イコール職業教育をやるのかという誤解も含んだ見え方をすることがプラスかと言われるれば、今はまだそうでもないかなという感じはするので、ただ、どこかに見えるということであれば、恐らく人間力との関係で置かれるべき項目かなというふうに私は思っています。

ほかに何か。委員、お願いします。

<委員>

私はキャリアというのは、「夢や希望」の中に入るかなというふうに感じました。キャリアというのは、人が成長するに従ってだんだん身につけていくものであって、上部じゃないですよね。上部というのは、そこでやる単発の仕事みたいな感じで、仕事のための教育ではないですよね。キャリアをだんだん積み重ねていくと。なので、ファカルティーといえますか、だんだん開花していくものであって、小学校、中学校とか、高校ぐらいではキャリアまでは到達しませんよ。ずっと続いて、だんだん開花していくものなので、やはり「夢や希望」とリンクするものではないでしょうか。本当の小さい意味での職業教育とかではないと思うんですね。なので、結論から言いますと、書かなくてもいいと、「夢や希望」に入っていると、そういうことです。

<会長>

ありがとうございました。というふうにさまざまな捉え方がまだある段階の議論だというふうにとめたほうがいいかなというふうに思います。そもそもキャリアという言葉自体が日本語にできない言葉のまま使われていますので、そういう難しさももちろんあるわけですね。

ほかに。全体、今別図を中心に、あるいはその説明を中心に御検討いただいているわけですが、時間的にはそろそろいいところに来ていますが、お気づきの点があれば、今のうちに整理をしておきたいと思います。いかがでございましょうか。

およそこの形でもよろしゅうございますか。それでは、今さまざま出ました御意見について、もう一度事務局のほうで参考に別図を整理していただくということで、あとは、少し、私のほうも事務局と協議をさせていただきまして、また次回、決定版といいたいましょうか、を御提示できるように努力をしたいというふうに思っております。宿題としては、この大

きな階段の図との関係が残されましたので、この部分を今日ごらんいただいた別図をもとに、少し整理をかけさせていただくということになるかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

そうしましたら、今度は、資料の2ということで、本編にかかわるところでございますが、この資料の2のところを、事前にといいましょうか、数日前にお送りしたのではないかと思います。皆さんのほうでお目通しいただいていると思いますが、この点について御説明をいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

<事務局> (配付資料により説明)

<会長>

ちょっととりあえずそこまでにさせていただきます。Ⅱ番が「教育を取り巻く情勢」ということで、1、2、3、4というふうに挙げていただきました。その次は、「本県教育の現状と今後の方向性」ということで、15の項目が出てくるということになります。

確認ですけれども、今の「教育を取り巻く情勢」はどここの情勢ですかね、一番最初の「少子化のさらなる進行」のところは、明らかに本県の情勢だと。でも、2、3、4については、どここの情勢なんですかね。そこのバランスが非常に悪いなというふうに思ったのが最初の印象です。つまり、本県の教育を取り巻く情勢を、全国と比較しながら、きちんと議論しようとしているのか、それともいわゆる一般的な、どこにでも書いてあるようなことを、ここでも一応書いておこうかなというふうに書いておられるのか、その辺はいかがでしょうか。

<事務局>

御指摘のとおり、どこにもあることを書いておこうかというのが一番初めのスタートでした。結局、後のほうでも、本県の教育の中に、例えば情報化とか国際化というのが出てきます。重複した格好になっています。さらに、御指摘のとおり、一番初めの人口問題のところについて見ると、非常に島根県オンリーの話になっていまして、直接ここでは我々の当初の整理としては、直接教育ということで及んでいない部分という形でちょっと整理したんですけども、御指摘のところは、わかりにくさがあるというふうに考えています。

<会長>

次のⅢのところ为本県ということで、Ⅲのところは当然県のある意味では本気が出てこないといけないところですよ。だから、Ⅱはどうでもいいとは言わないんですけど、Ⅱの出だしがかなり本県の状況が出ていますので、それとのバランスが、実は2、3、4は余りよくないかなというふうを感じる。1がこれだけ書き込まれるんだったら、やっぱり2も3も4もある程度本県の現状を踏まえられたほうがいい感じもしますし、そのあたり難しいとは思いますが、資料なしに書けませんので、大変だなというふうに思うんですけど、ちょっと印象としてはそのように思いました。

ほかの委員さん方、そこをごらんになって、何かお気づきの点や文言の修正等もお手を入れていただいておりますので、できましたら御発言をお願いします。いかがでしょうか。

あり過ぎるかもしれませんが、よければ、細かいところであれば、後から事務局にお伝えいただければいいですが、全体で議論すべき文言等の修正等がありましたら、お出しただければありがたいと思います。

例えば、私は、1ページの「少子化のさらなる進行」の下線を引いた部分がいわゆる解決策といいたいでしょうか、今後どうしていくべきなのかについて触れた部分というふうにおっしゃっていただきましたが、このような状況が避けられない、少子化が進んでいく中でということで、その後、「本県の現状と課題を把握し創造的に支えていく人」というのはどういう意味なのかなということがちょっとわからなくて、それを学校教育と社会教育が連携して育成する必要があると。これは、教育の基本的な部分ですので、この県の現状、人口減少、少子化の現状と課題を理解することが一つですが、「創造的に支えていく」という言葉が、短いけど、意外とわかりにくい言葉だなというふうに思ったりもいたします。そういう人を育成する必要があると、かなり大きなところに向かってぼんやりと行きますので、そのあたりがどうかなというふうにもちょっと思います。ある意味では、この項は、教育を取り巻く情勢の項ですので、そこから人材育成まで一気にいかなくてもいいのかなという感じもします。後ろの大きなⅢ番の今後の教育の方向性については、これは具体的に、例えば学力をどうするか、社会性をどうするかの問題ですから、これは方向性が示されなければいけませんけど、今少子化が進行しているからといって、だから、どうしなきゃいけないかということまで書くのはなかなか難しいかもしれないなということにはちょっと感じました。すみません、感想レベルの話でございます。

委員さん、お願いします。

<委員>

今のにちょっと関連するんですけども、やはりこの情勢、いろいろな環境が子どもたち、または人々の気持ちとかに影響しているというところを書くと、これが重要な課題であって、解かなければいけないというところになるかなと思うので、私の印象としては、これらの状況によって、こういう部分が問題である、教育的に問題であるというのをちらっと指摘するといいたいかなというふうに思いました。例えば「少子化のさらなる進行」というところにかけて、別紙に書いてある全体構造のところ結びつければ、少子化の進行によって子どもの社会性がさらに低下するというところは、社会力が低下しているというところに、「広がっていく社会力」のところとちょっとリンクするかなというふうに思いました。

それから、さっき会長さんがおっしゃられた、このような状況が避けられない中での云々のところですけども、ここは、「本県の現状と課題を把握し創造的に支えていく人」ですが、支える目的語がないので、理解不能なセンテンスかなというふうに思いました。今のはちょっとしたコメントです。

それから、次に、「雇用環境の変化」、これも非常に大きいところなんですけど、ここは、私が考えると、こういう雇用環境が悪いので、夢や希望が持てない社会になっていると。そこで、「向かっていく学力」のところにある「夢や希望に向かって主体的に学ぼうとする」というところに結びつけられるかなというふうに思いました。そこに、またキャリア教育のことも書いてありますので、夢や希望を持って将来に向かってキャリアをつくり上

げるようなというところに結びつけられるのではないかというふうに思いました。

それから、地域社会・家庭の変化、ここも、少子化とちょっと似ているんですけども、社会力が低下してしまっているという課題がこの変化から読み取れるのではないかというふうに思いました。

国際化とか情報も、社会力とか人間力という部分とちょっと整合性があるかなというふうに思いました。

ですので、ここでは、さっき会長さんもおっしゃられたように、状況を言って、こういうところが問題だというふうに指摘して、ちらっと次の展開に結びつけるようなところを示唆する程度にとどめておくのはどうでしょうか。

<会長>

ありがとうございました。状況の提示、それから問題の指摘、そして今後のあり方の検討が必要だよということを示唆するという段階ぐらいの指摘にしたらどうかという、そういう御意見でした。書きぶり、全体についての御指摘だと思いますので、少し御検討いただければと思います。

委員さん。

<委員>

委員さんがおっしゃったのは、ここで、別図でいうと、基本理念と基本目標を支えるような課題とかを整理して指摘しておいたほうがいいじゃないかという御意見でよろしいんですか。私も同じように思いました。

<会長>

位置づけとしては、これが第Ⅱ章ですので、第Ⅰ章のところ、今日御検討いただいたところはまず出てきているということですかね。それから、本体は後ろに出てくるんですか、その辺の位置づけがよくわかりません。

<事務局>

今事務局で考えているのは、現状と方向性を言った後に基本理念という形なんですけども、現状と課題がずらずらと並んでいて、真ん中辺から基本理念が出てくるというのは、ほかの県でもたくさんそういう計画があるんですけど、読み疲れるんですよ。そういう意味で、そこは工夫の余地が、事務局としてもあるのかなとは思ってはいます。

その辺のところ、先ほど申し上げましたように、分量が多いなど。論文ではないので、どんどんはしょっていただきたいなという思いがあるわけですけども、やはり核心部分に集約するといいますか、そういうことをしないと、さすがにこれは誰も読まないだろうなと思いつつ。すみません、そういうことでとりあえず提案させていただきました。

<会長>

わかりました。基本的には結論に当たる部分が冒頭に出ているほうがレポートとしてはいいなと思いますね。だから、例えば先ほどの基本理念とか基本目標とか、そういった図

とかなんとかが、こうやるんだよということが最初に出てきて、その後ろにその理由とい
いましょうか、こういう背景を踏まえてやるんだよということが出てくる。それから、ま
た、個々の課の施策の必要性というところについての一定程度のデータに基づく説得力の
ある章も必要でしょうから、その部分については、これから見ていただく第Ⅲ章のとこ
ろに、こういう1個1個の施策についてはこういうデータを踏まえてやる必要があるんだよ
という話は当然書かれるべきところですね。ただ、そこから書いて、最後に結論がどっ
こいしょと出てくるようなものは、多分人は読まないでしょうから、その辺は順番をお考
えいただいたほうがいいかなというふうに思います。

お願いします。

<委員>

新聞を例に挙げますと、逆三角形構図なんです。まず見出し、基本理念に当たりますが、
それがどんとあり、それから全体を説明するリード文が続くというように大事なところ
から大事なところから書いていく。逆三角形が基本なんです。後のほうになるに従っ
て、細かい部分に触れていく。言ってみれば、ラーメンをぱっと見てうまいなと、最初
にうまいなと思う見出しとか、全体の流れがあって、次にスープも麺も食べようかなと、
最後のほうまでずっといくという、そういう構図にされたほうがわかりやすいと思
います。より具体的なところは、下のほうにずっと網羅していくというのがやっぱりお
さまりがいいですし、一番妥当な一般的なやり方かなというふうに感じます。

<会長>

ありがとうございました。少子化の現状について触れておくことは必要だと思
いますけど、だからといって施策にどう反映させるかというところまでいきなり一足
飛びにはなかなかいきにくいところでもありますので、どのような位置づけをされ
るかは少しお考えになったほうがいいかもしれませんね。

ほかにいかがでしょうか。これ、第Ⅱ章のところは、全体に軽くという御意見
が今強いですが。

委員さん、お願いします。

<委員>

私も軽くというところで、事務局が問題意識を持っていらっしゃるように、軽く
あるべきではないかなというふうに。先ほど委員がおっしゃったように、関連づける
ということも非常に大切なんですけど、データを並べ、全て具体的にちょっと書き込
みが過ぎているようなところがあって、問題は我々がビジョンの中で描く全体構造
とか施策に、なぜそういうことが必要だったかという背景を書くべきところなので、
書き込みはすごいんですけど、今のもっとさらに進んだ状況からすると、若干や
わらかいイメージで、例えば少子化はさらなる進行じゃなくて、もう急激に進
行していて、今ゼロ歳から4歳児の人口というのは、今までの減少カーブよりさら
に減っているということを書いて、これが大きな問題になっているから、こう
こうこういうことにしなきゃいけないという、やっぱりそういうことだと思
いますし、もうちょっとビビッドな側面というのは、国

際化も、国際化が進展しているというよりは、もう国際のパワーバランスが変わっていて、今後どうなるかわからないとか、国内経済にしても雇用にしても、もう余りにも、うちの、余計なことですけど、娘が大学生ですけど、就職がどこになるかわからないというぐらい、非常に厳しい環境がもう間近に迫っていて、大きく国が変わろうとしているとか、国を取り巻く事情とか、教育を取り巻く事情が変わろうとしているということがさっとわかったぐらいのことでいいのかな。だから、こういうビジョンで島根県は取り組まなきゃいけないんだという力強さがここでは求められている。だから、そういう意味では、データを並べ詰めて、何かどこそこではどうこうどうこうというよりは、さらっとインパクト強く書き込んで、あとは、委員さんがおっしゃったように、ここにつながっていくというふうなふうにされたほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。

<会長>

ありがとうございました。おっしゃるように、データを並べて分析的に書くと、やっぱり強さというものが失われるんですね。この部分で今御指摘があったのは、県の教育行政の本気度というか、危機感というか、あるいは課題意識というものがやっぱりぽんと前面に出てくるほうがいいんじゃないかということでありましたので、そのような観点からお書きになったほうがいいかもしれませんですね。冷静な情勢分析と必要な施策についての説得力というのは、後ろのⅢのところに出てくる話ですので、そういう書き分けがいいのかもしれないですね。

そうしましたら、非常に大ざっぱなまとめ方で申しわけないんですけど、少し先のほうが大事ですので、次の第Ⅲ章といいたししょうか、「本県教育の現状と今後の方向性」、このところは、いわゆるエビデンスベースとデータを挙げながら、この施策がなぜ必要なのかの、先ほどの図でいくと、実は基本理念とかなんとかよりも、一番右側の具体の取組のところの根拠になるような部分をここに書いているというふうな位置づけになろうかと思えます。

それでは、これ、1項目ずついきながら、終わらせていかないと、時間がありませんので、すみませんが、一つ、まず、「学力・学習習慣の状況」というところを御説明ください。

<事務局> (配付資料により説明)

<会長>

ありがとうございました。これは、後ろにいわゆる各課のやろうとしている取組がひもとしてくっついているということですか。つまり書き落としができないというスタンスで書いておられますか、それとも少しはしょって。「かなり」、「さらに」とか、「加えて」とか、「あわせて」とかって、ずっと積み重なっていきますけど、それを一々言わなきゃいけないかどうかということについての、まず行政的な判断をお聞きしておきたいと思えます。

<事務局>

この学力については、前回の審議会でも言っていただきましたけども、早急に行動に移すということから、今、市町村教委と連携を図りながら、学力向上対策を行っていきたいということで、その中のエッセンスをここへ入れた形になってございます。ただ、事細かく全部書かなきゃいけないかどうかというのは、特にそういうことではなくて、核のところです。

<会長>

ありがとうございました。それなら、書きようがあります。落としていいという話ではなくて、かなりしつこく書いてあるので、どうかなと。学力が大事じゃないという意味じゃないんですけど、例えば「学力観の共通認識」なんていうのは、例えばこれの後ろに、家庭に配布する学力向上のためのパンフレットの印刷費が予算化されているという話だったら、書いとかなきゃいけないと思いますけども、そういう話なのかどうかということについて、一応確認しておかなければいけないと。委員の中からはいろんな御意見が出るでしょうけど、このことの後ろには、いわゆる予算化された取組があるので、これが落とせないという認識で書いておられるということであれば、そのことは尊重しなければいけませんし、その辺はどうでしょうかということをお伺いしています。

それも勘案しながら御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

<委員>

今、会長がお聞きしたこととかかわるんですけど、この後の章というか、これは大きいⅢ番ですけど、大きいⅣ番とかに具体的な施策というのが来るということなんですかね。

<会長>

そうですね。

<委員>

そうすると、やっぱりいろいろはしょっていいし、今まだ整理段階だとは言われているのですが、さっき確認した別図のところとの対応だけでいうと、学ぶ力、学んだ力、たくましさ、生活習慣のところ限定してここは書いてもいいのかなというところと、これはちょっとしつこくもう一回言うんですけど、やっぱり生活習慣のところ、後ろにももう一回来るので、これはここから取ってもいいのかなと、私の意見として思いました。だから、例えばもう一回だけ別図に戻るんですけど、例えば具体的な目標のところ、学ぶ力、学んだ力だけにするというか、例えば知識に関する学力、活用する学力みたいな、これは全国の学力調査と若干というか、ほとんど対応させて今言ってますが、そこに絞って学力のところを書いて私はいいいのではないかなと思いました。以上です。

<会長>

ありがとうございました。学力向上についてどう考えるのかという考え方、課題と考え方というところを少し的確におまとめになったらいいんじゃないかなと。学力というものについての考え方をお書きになったほうがむしろわかりやすいと。施策についても、もち

ろん後から出てくるということであれば、ここでは少し網羅的に、これもやるあれもやるということを書かせるんじゃなくて、もうちょっと学力を向上させるということについてどう考えるのかということを中心にお書きになったらいんじゃないかなというふうに感じました。すみません、大変偉そうなことを申し上げてます。

ほかに御意見があれば、お願いします。

<委員>

5 ページの知識基盤社会ですけれども、ちょっと唐突に出てきた感じがしてしまうんです。何となく取り巻く状況がちょっと大きく出過ぎて、できれば、もしも入れるんだとしたら、1 ページの教育を取り巻く状況のところをちらっとでも入れておき、整合性があるような感じにできないものかなというふうな印象を持ちました。

<会長>

ありがとうございます。中教審や文科省の文書などでもこの言葉は使うんですけど、どういう文脈で使うかということですね。

ほかにいかがでしょうか。最終的な書きぶりはもう県にお任せするしかないんですけども、お気づきのところは御指摘いただいたほうがいいかなというふうに思います。

それでは、すみませんが、2 番に進ませていただきます。「規範意識・社会性の状況」です。

<事務局> (配付資料により説明)

<会長>

ありがとうございました。私の発言は差し控えますので、皆さんのほうから御意見を。はい。

<委員>

いろいろな意見が出ていますけど、各課から上がったのが網羅されている。したがって、見ていくと、「必要」、「必要」、「必要」でまとめておられるところと、「求められる」であったり、「取り組み」が「取組」になったり、種々雑多になってますので、アンカーマンが必要なんです。全体を目を通して、ここは肝だよねという、これははしよつてもいいよね、と判断する人がいる。その方が目を通して全体のバランスで、この文言はこういうふうにもっとすっきりしようとか、同じ文言がいっぱい並ばないようにとか、その辺をまとめられると、もうちょっとすっきりすると思います。

<会長>

なかなか難しい課題なんですけれども、一つの人格で書いていく必要があるという御指摘ですね。

ほかにいかがでしょうか。文言や論理について課題があれば、少し御指摘をいただきたいと思います。書きぶり全体については、少しまた調整をされると思いますので。よろし

いですか。

それでは、3番目の「いじめ・不登校の状況」というところについて。

<事務局> (配付資料により説明)

<会長>

ありがとうございました。何かお気づきの点について。お願いいたします、委員さん。

<委員>

思いつきみたいなことで、一方的かなと思うんですけども、最初のところで、1のところで、学力の問題が課題として挙げてあって、子どもたちにとって、学びということと、子どもたちの学校の生活という部分は、切っても切り離せない関係があって、子どもたちが学級や学校で起こる、いろんないじめも不登校もいろんなトラブルも社会力を育てる上でとても大事な課題だと思うんです。いわゆる国語や社会を学ぶのと同じように、子どもの身の回りで起こっているいろんなささいなことでも解決していけるような力を育てないと、社会に出ても課題がいっぱいで、それさえも解決できない子どもたちが社会へ出て、もっと大きな課題にぶつかってはいけない。だから、学級で起こっている課題を解決していくという部分で、そういう意味で規範意識やいじめや不登校がどういうふう子どもたちに受けとめられていて、それをどういうふうにしていくべきなんだというような書き方が必要なんじゃないかなと。学力は正面に書いてあるけども、もう一つの子どもたちの暮らしのことをまとめて書くほうが、学校の先生方には非常に受け入れやすいんじゃないかなというふうには私は思いました。

<会長>

今の御指摘、非常に重要なことで、普通でいえば、教科学習と、それから学級経営みたいな、そういう書きぶりのことですね、今おっしゃったのは。ここまで、いじめ、不登校という問題をぼんと切り出して書くか、それとももう少し学級社会とか学校社会ということを生き抜く、あるいはそこでの人間関係という問題の視点から書いていくか、そういった書き方もあるんじゃないかというアプローチの御指摘だったと思います。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。今15個の問題が出ていますけど、どこかとどこかをまとめていくと、また全部つながっていくようなところもあるし、大変難しいなというふうに思いますが、この辺の書いていく単位の問題ですね。大きな単位で書かれて、その中を(1)、(2)というふうにするような方法論もあろうかと思しますので、その辺もあわせて御検討いただければと思います。

そうしましたら、4番、「生活習慣」のところをお願いいたします。

<事務局> (配付資料により説明)

<会長>

ありがとうございました。いかがでしょうか。これはどっちかといえば、家庭の側へ向かって書いておられるような気はするんですけども。お気づきの点があれば。よろしいですか。

それでは、5番目、「体力・運動」。

<事務局> (配付資料により説明)

<会長>

いかがでしょうか。かなり具体的な書き込みがこの部分はしてありますね。

では、6番目、「情報化の状況」です。お願いします。

<事務局> (配付資料により説明)

<会長>

ありがとうございました。この点についていかがでしょうか。事前にお目通しいただいて、お気づきの点について触れていただければと思いますが、また、細かいところについては、個別の調整もできますけれども、一応全体で議論しておくべきこともあろうかと思えます。その点があれば、お出しいただければと思います。よろしいですか。

私の進め方が悪くて、時間がかかり押していますので、大変申しわけありませんけど、7番から15番までは、事前にごらんいただいているということを前提に、事務局の御説明を省かせていただきまして、御意見をお出しいただいたほうがいいのかと思えます。項目として軽視しているわけではけっしてありませんが、時間の関係で、御協力のほどお願いいたします。

いかがでしょうか。お願いいたします、委員さん。

<委員>

スマホの件ですけれど、3、4、6と、重複して書いてあるんですが、これはわざと強調したいということで書かれているのか、それとも何かそれぞれが、健康教育のセクションと何かほかのいじめのセクションとが書いているうちにこういうふうにも重複してしまったのかということが若干見受けられております。スマホは、もう大きく分けると2つしかなくて、個人情報はどう漏れるかという話と依存症の問題と、この2つしかないので、ICTの中で書くのであれば、それを書き込んで。さっきも3と4にもそれぞれ書いてあるものですから、どうなのかなという。わざと書かない勇気というのにも必要だったりするかなというふうにも思ったりはしました。

<会長>

整理の角度の問題について御指摘をいただいたと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。世の中の問題の側から串刺しにして書くということはなかなか難しいですよ。また、逆に言えば、各課のそれぞれの取組の中に同じような現象や問題が扱われているということもまた事実ですね。

全体にお目通しいただいて、このところはどうなんだろうというところがありましたら、御指摘をいただいて、全体で議論をしておきたいと思います。また、最後に申し上げようかと思いましたが、もう3月の会議までそれほど時間がありませんので、個々にお気づきの点は、メール等で個別に調整を図らせていただくこともあろうかと思しますので、その点につきましては、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

拝見していると、たとえば11番などは、「幼保小中高連携」とあって、言葉としてはいいけど、そんなことできるのというのが気になります。項目としてこれを挙げなきゃいけないのかなという感じも少ししなくはないですね。もちろん情報共有や相互理解は必要ですけども、それが、具体的に施策として何かできるのと言われれば、各校種間の連携ということだったら、もう少し細かく書き込まなければいけないし、それを全体に大きい項目として「幼保小中高」と書いたほうがいいのかどうかというのは議論のあるところだと思いますね。ただ、後段との関係で項目は出しておく必要があるのかもしれないから、その辺も御判断だと思います。

ほかに、文言等お気づきの点はございませんか。そうしましたら、この場では、時間の関係で私が急がせたために、なかなか御意見は出ませんでしたけれども、今後お読みいただいて、またお気づきの点があれば、直接事務局のほうにお知らせをいただきますと、私のほうもそこで考えさせていただきますので、どうぞ今後ともお目通しをいただいて御意見いただくということで、本日のこの場での議論については、この段階で一応打ち切らせていただきたいというふうに思います。大変申しわけありませんでした。

事務局から何か。

<事務局>

すみません、先ほどの委員からの御指摘のところは、あえてではございません。それと、「幼保小中高連携」というのを入れているのは、やはり幼保から小学校、小学校から中学校、中学校から高校への情報共有とか、情報伝達、あるいは教員の相互理解といったところに大きな課題があるというふうに考えております。それをなかなかうまく表現はできないんですけども、そこが一つ、子どもたちを連続的に育てていくために取り組まなきゃいけない部分かなということで、ここへ入れているということでございます。

それから、御指摘いただきましたように、私もちょっとアンカーマンといいますか、全体を同じトーンで書くと、あるいは核心的なところを考え方として御提示できるということまで、ちょっとここは至っておりません。その点を整理いたしまして、また皆様方にメールと、それからファクス等でお渡しいたしまして、また御意見をいただきながら、高めていきたいというふうに思います。感覚といたしましては、やっぱりボリュームがあり過ぎるし、くどいし、前提条件を必ず入れなきゃいけないという面が出ていますので、その辺のところをぐっとはしょったら、多分半分ぐらいにはなるんじゃないかというふうに思いますので、そういう方向でちょっと考えたいと思います。

<会長>

私の申し上げたことは、いわゆる施策の横並びではなく、体系化ということについてどうお考えかということで、15項目並行して走っているということよりも、例えば「幼保

小中高連携」というものだったら、例えば特別支援教育においてはどうか、あるいは学力形成においてはどうかというふうにして、本当に書くのであれば、そのようにある意味では体系づけて書かなければいけないということで、そうでなければ、ただ並べて書いているだけということになりますので、そのあたりをどのぐらい体系化されてお書きになるかという問題だというふうに思っております。

進め方がまずくて、多くの御意見をいただくに至りませんでした。御協力に感謝を申し上げまして、事務局のほうにお返しをしたいと思います。